

陸上運動部部便り

2008年9月号

一橋戦

目次

1 一橋戦

1.1 監督の言葉

監督 寺田秋夫

今年の一橋-東大対校は50回、女子津田塾-一橋-東大三大学対校陸上は第5回の節目となり、本年唯一の本学主幹試合として駒場で開催されました。例年より1週早い開催でしたが、残暑も厳しくなく願ってもないコンディションとなりました。1年生やシーズン前半振るわなかった怪我人の本領発揮を期待した試合となり、特に、女子はこのチームで初めて、地力で勝ちに行こうと狙っており、いつものこの試合とは違う良い緊張感を持っての競技開始となりました。

男子は、一橋のエース欠場もありましたが100mで、1・2・4位確保や、円盤で、谷(3年)、北川(4年)が自己新で1,3位の勝ち越しなど、弱点と目されていた種目で勝ちをしっかりと積んで午前中で楽勝ムードとなりました。また、110mHでは主将尾崎を温存しながら、酒谷(2年)・増本(2年)・高木(1年)で、また、400mでも小福田と梶岡の4年コンビが自己記録で実力者兵頭(2年)を従えてでの上位独占など、彼我の戦力差を考えても価値ある内容でした。ただし、4継で最後危うかったものの勝利して優勝が決まった後に、高跳でスコンク負け、幅跳でも4点勝ちに終わるなど、フィールド総合で負けてしまい詰めの甘さがあったことと、中長種目で、三年連続で一橋の術中に嵌る展開になってしまったのは、一橋の選手のこの試合に対する思い入れの強さと、本学側の気持ちの上での問題があると言わざるをえない面があり、毎年、同じ反省になってしまうのは少々残念です。とはいえ、一橋も今年はバランスが良く、本学は低学年の実戦でのパフォーマンスの確認や京大戦の選手選考的な布陣で闘ってでの16点勝ちの結果としては、まずまずでした。女子は、ここ数年と異なり

選手がそろわないのは砲丸投だけでしたが、その砲丸投に鈴木(1年・長距離)を起用し、とれる点はすべて取る姿勢で優勝目指して臨みました。日下が予定通り400m,1500mで二冠(ともに自己新、1500mは一昨年の向田さんの大会記録を更新)、砲丸投で楠木(3年)が優勝と順当に行きますが、津田塾が勝負強くなかなか引き離せず、津田塾と同点で最終種目のリレー勝負となりましたが、リレーでは実力差があり負けてしまい、総合で2点差で2位に終わりました。優勝できずに残念でしたが、七大戦での充実した内容での喜びと、今回の狙って行って勝てなかった悔しさが良い方に回転すれば京大戦は昨年以上に良い内容で戦えると思われれます。今回は1年生は自己記録更新者こそいませんでしたが選手起用された者が、概ね期待通りの結果だったことと、上級生がレベルは様々ですが、京大戦を考えると喜ばしい自己記録を多数並べて秋シーズンの入り方としてはまずまずです。手放しに喜べる状況ではありませんが、形になりつつあります。京大戦まで5週間開きますので、良い流れを作って最後はこのチームの本領を發揮したいと思います。なお、今回は節目の大会ということで、特別趣向で優秀選手表彰を行い、男子は1500m3年連続スコンクの立役者で2連覇を果たした一橋の斉藤選手、女子は今大会唯一の大会記録を出しての二冠獲得の本学の日下が表彰されました。秋シーズンは駆け足で過ぎてしまいますが、変わらぬご支援、ご声援をお願い申し上げます。

1.2 主将の言葉

主将 尾崎 翔

秋シーズン最初の対抗戦となった本大会。この大会で我々に求められるものは勝利というだけでなく、七大戦の流れを払拭し、京大戦にむけて流れを作るための内容のある勝利です。結果としては、64対48での優勝という結果以上に、今年結果を出せていなかった短距離が100m以外全種目でのスコンク、5000m

ではエース竹俣に加えて一年生二人が実力上位に食らいつく内容のある走りを見せてくれましたし、投擲種目でも相手の不調を逃さず自己ベストを出して勝つといういい内容の試合を見せてくれました。七大会でのショックはもはや払拭しました。そして次、京大戦に勝つためにはここから先、さらに勢いを加速させていかななくてはなりません。それに加えて、圧倒的不利の種目では絶対にスコンクされないという気持ち、有利の種目では死んでもスコンクするんだという闘争心が必要になってきます。しっかりと気持ちの強さで戦っていけるチーム、そして、その気持ちを結果に結びつけていけるチームになるよう、ここから最後の一ヶ月、努力するのみです。勝つために、いっそうの応援をよろしく願いいたします。

1.3 女子主将の言葉

女子主将 日下桃子

女子は東大・一橋・津田塾の三大学女子対校戦となつてから五回目の記念大会を迎えました。本年度初めて現実的に優勝を狙える大会として位置づけ、チーム全体で「絶対に勝つんだ」と強い気持ちで臨みました。しかし、結果としては津田塾大に2点及ばず総合44点で準優勝という結果に終わりました。ここ数年負けが続いている津田塾大にまたしても勝てなかったことは非常に残念ですが、今のチームの総力は尽くした上での結果だと受けとめています。長距離専門の鈴木(1年)が1500mに加えて砲丸投に、清水(3年)が100m・400m・走幅跳・4×100mRの四種目に出場するなど選手達はよくがんばってくれました。しかし京大に勝つにはまだ十分ではありません。今回の反省点を活かし、さらに実力をつけて万全な状態で京大戦に臨みたいと思います。今後も変わらぬご指導とご声援をよろしく願いいたします。

1.4 試合経過

トラック

10:30 男子 100m 決勝

3レーンに中嶋(3年)、5レーンに都井(3年)、7レーンに春日(1年)の出場。本日一種目の競技だけに是非ともスコンク勝ちで大会序盤の流れを作りたいところである。実績のある都井がレースを作り、中嶋と春日をうまく引っ張りたい。申請記録通りいけばスコンク勝ちではあるものの、レース展開次第でどうにでもなる範囲。力まずに走ることが重要であった。号砲が鳴る。反応は6人ともほぼ互角。序盤では4レーンの一橋大の永田と都井が鋭い加速で主導権を握り、外側の選手はこれについていく展開。春日は若干出遅れを喫する。50mほどで都井が良い伸びを見せ、先頭の座をほぼ奪取。春日・中嶋も徐々にこれについて上がり、スコンクには永田を抜けるかどうか、という形になる。結局都井はそのまま先頭を守りきり、11"41の1着でフィニッシュ。春日は終盤の粘りがよく、フィニッシュライン手前ギリギリで永田を差し込み、11"43の3着でフィニッシュ。中嶋は60m付近で前3人に先行された後、やや硬い走りになってしまい11"71の4着でフィニッシュ。このとき風はなかった。スコンクこそならなかったものの、6点勝ちという幸先のよい状況を作り出す事ができた。

10:55 女子 100m 決勝

3レーンに清水(3年)、6レーンに大久保(3年)が出場。清水は申請タイムが全選手中トップであり、優勝も狙える。一方で3番手以降の選手のタイムが拮抗しており、大久保は上位に食い込めるかどうか重要である。スタート直後、清水とその内側の津田塾の選手の2人が飛び出す形となる。その後ろでは4人の選手がほぼ一列で進む。清水は競り合いながらフィニッシュへと向かうが、ラスト15mあたりから津田塾の選手に離されてしまい、2位でゴールした。また、大久保はやはり他の3人の選手と競っていたのだが、徐々に離されてしまい、4

位でのフィニッシュだった。清水のタイムは13"56、大久保のタイムは13"75、このときの風は-0.3mだった。この種目で4点を取得した。女子最初のレースでもあるため勢いをつけたいところだったが、本来の力を発揮し切れなかったと言にくい。多種目出場のために力を出し切れない状況を改善したいところである。

11:10 男子 1500m 決勝

千徳(4年)、坂井(3年)、池田(1年)の出場。毎年パツとしない結果に終わってしまう一橋戦 1500m を打破しようと、中距離 1500 系のエースである坂井を軸に、対校戦初出場の千徳、池田を加えた形で挑む。ピストルの鳴らないアクシデントを経て二回目のスタート。経験豊富な坂井は持ち前の積極性で前方へ出る。一方、千徳、池田は後ろから様子を窺う形で最後尾につける。予想されたように、牽制が激しく、400m を 69"、800m を 2'19" で通過した。ところがここから坂井が後退し始め、集団からも離されそうになってしまい、この時点で一橋大の 3 人が前にいるという厳しい展開になった。最後の 500 m から一橋大の選手が仕掛けると、東大選手は対応が遅れるも追従するが、バックストレートに入ると、池田と坂井は集団から振り落とされてしまう。千徳が 4 年生の意地を見せ、3 位の選手を追いかけてスコנקは逃れようと奮起するも、ラストの直線の入口あたりから、ジリジリと距離をあけられてしまい、そのまま追いつくことはなかった。結果、千徳が 4'17"52 の 4 位、池田が 4'19"26 の 5 位、坂井が 4'20"15 の 6 位でゴールし、本学は屈辱のスコנקを浴びさせられてしまうこととなった。来月に行われる京大戦では今大会と同様、中距離パートのみで 1500m をやりくりしなくてはならない。800 系の選手も含め、夏の長期休暇でなまりきった体を、短い秋シーズンの貴重な練習と、9/12-13 の中距離合宿を乗り越えることで、更なるレベルアップを図ってもらうことを期待するばかりである。

11:30 女子 1500m 決勝

日下(3年)、鈴木(1年)の出場。持ちタイム

で周りの選手を大きく上回る日下にとって、今回のレースでは優勝はもちろんのこと、5 分の壁を突破し、自己新、大会新を目指してのレースとなる。久しぶりの 1500m 出場となった鈴木にも、大いに高得点の獲得が期待される。津田塾大の O P の選手一名を含めた 7 名でのスタートとなる。予想通り、スタート直後から日下が積極的にレースを引っ張る展開となる。不慣れな 1500 m でペースがつかめなかったせい、2 周目で少しペースが落ち後ろにつかれるものの、800m 地点からは一気に後続を突き放し独走態勢に入った。1200m 地点では 5 分ジャストのペースであったが、持ち前のスパートでラスト 300m を 54 秒で走り、4'54"67 の 1 位で見事大会新、自己新を更新した。

一方、鈴木は厳しいレースとなった。スタートから先頭につき、500m 地点までは 3 番手にいた津田塾の O P の選手に喰らいついていったが、徐々に離されペースダウン。しかし、ラスト 100 m は後続とのスパート争いに勝ち 5'55"58 の 4 着、対校戦手の中では 3 位となった。日下としては夏場に距離をつんでスタミナ強化に努めていたが、その成果を遺憾なく発揮できたレースであった。ペース配分次第ではさらなる記録も期待できよう。鈴木は夏までの対校戦では他大の選手に大きく差をつけられることも多かったが、今回上位をとれたことを自信にして、京大戦でも活躍が期待される。この結果本学は 10 点を獲得した。

11:50 男子 110mH 決勝

1 レーンに増本(2年)、3 レーンに酒谷(2年)、7 レーンに高木(1年)の出場。酒谷、増本は七大戦で決勝に残り、その良い流れを今大会でも見せたいところ。また 1 年高木にとっては初めての対抗戦で良い結果を出し、アピールをしたいところである。号砲と同時に酒谷が良い反応をし、持ち前のハードリングでトップを疾走し、4 台目で 1 位をほぼ確実にし、そのまま安定した状態で 15"70 の 1 位でゴール。増本はスタートで出遅れるものの、徐々に先行する一橋の選手をを追いつめ、70m 付近でとらえる。その後も差を離し、16"11 で 2 位

となる。高木は序盤少し遅れ気味であったが、後半追い上げてラストで一橋の選手を抜き去り、16"69の3位でゴール。このときの風は+0.1mであった。結果、東大はスコルク勝ちをすることができ、今後のハードル競技に明るい兆しが見えたといつてよい結果になった。残る京大戦に向けては、エースの尾崎も加わるのでより一層の期待をしたいところである。

12:10 男子 400m 決勝

2レーンに兵頭(2年)、4レーンに小福田(4年)、6レーンに梶岡(4年)の出場。一橋のエース欠場によってスコルク勝ちが確実視されており、ここはしっかりと勝っておきたいところ。また、夏休み明け再集合の1週間後であり400系としての夏の練習の成果が試される試合でもあった。号砲とともに3人とも上手くスタートを切る。バックストレートでスピードに乗り、200m付近ではすでに3人は一橋の前に行く格好となっていた。兵頭と小福田はそこからギアチェンジをし、さらに前に出ようとする。小福田はそのままの調子で走り切り49"54の自己ベストを更新しての1位でゴール。梶岡はラスト150m付近で小福田と兵頭に抜かれるも自分のペースを維持し、こちらでも50"73の自己ベストを更新して2位でフィニッシュした。兵頭はスパートが続きゴール手前50mで息切れし51"34の3位であった。スコルク勝ちではあったがそれは相手のレベルに助けられた面もある。特に兵頭の不振が長引いていることは400系のエース不在という深刻な問題だ。跳躍の小福田の力を借りなければならぬこともそれを物語っている。しかし、そんな中で梶岡が今年に入ってまたベストを更新したことは400系の底力を示している。京大戦の引退まで約1ヶ月。3年半練習してきた駒場の地でベストを出したことを踏み台に京大戦ではクセのある400系の後輩たちに最終学年として最後の雄姿を見せてほしいところだ。

12:30 女子 400m 決勝

女子400mは3レーンに日下(3年)、6レーンに清水(3年)の出場。日下は1500m、清

水は100mとの複数種目出場になるがどこまでがんばれるか。号砲とともに各選手がいっせいにスタート。清水は100mのスピードを活かし前半から積極的にとばしていき、日下もトップ集団にしっかりとついていく展開になる。200mを過ぎたあたりから清水には疲れが見え始め、じりじりと遅れていってしまう。一方の日下はここから本領を発揮し、先頭との差を詰めていきほぼ先頭と並ぶ。最後の直線に入ると、清水は先頭争いからは脱落していってしまうが、日下は他の選手が疲れをみせ失速するなかさらに加速し一気に先頭に立つ。結局、日下は61"42の1位でゴール。清水は66"56の5位でゴールとなった。日下は1500mとの2冠を達成し、女子の最優秀選手に輝いた。

13:50 男子 4 × 100mR 決勝

4レーンに中嶋(3年)、都井(3年)、春日(1年)、福田(4年)の出場。持ちタイムから考えて、バトンを実際に渡せば勝てるはずである。新人春日を含めたチームでのバトンワークが鍵となる。1走中嶋(3年)は、持ち味のスタートでリードし、バトンで多少詰まるも、その差を守り2走へ。都井(3年)は、朝の100mの疲れからか、少し一橋に差を詰められる。しかし、バトンパスを上手く決め、3走春日(1年)は、相手の差を広げながらコーナーを抜ける。3、4走間も上手くバトンパスし、福田(4年)は、リードをキープ、最後は流すようにして、43"69の1位でフィニッシュした。下馬通りに勝ちきることができ、短距離種目における大勝を確定した。

15:00 男子 5000m 決勝

竹俣(2年)、東(1年)、宮野(1年)の出場。33"という酷暑の中でのレースとなった。竹俣、東は七大戦の同種目でそれぞれ3位、6位と結果を残しており、宮野も高校時の体力を戻しつつあるので期待が高まる。序盤から竹俣が先頭を引っ張り、それに一橋の2人と宮野がつき、東はやや後方に位置取る形でレースは進行する。1000mを3'00"、2000mを6'03"と良いテンポで竹俣が先頭を走り、この辺りから独走態勢に入る。竹俣のやや後方で一橋の2人と宮野、少し遅

れて東が続き、この4人で2位争いをする形となった。3000mの通過時に1位と2位集団の差がさらに広がり、この時点で竹侯の優勝がほぼ確実のものとなった。3800mを通過した辺りから宮野が離れ始め、粘りはするもののなかなか差が縮まらない。東は最後まで2位集団についていたが、ラスト400mのスパートで対応できず失速し、15'34"8の4位でゴール。宮野は前半飛ばしたのが響き、15'46"9の5位でゴールとなった。竹侯は結局最後まで独走し、15'18"0で1位。貫禄のレースだった。竹侯はこの気温の中、誰とも競り合うことなく独走で優勝したのはさすがである。東は七大戦での活躍を考慮するともう少し上を狙えたのでは、とも思える。宮野は合宿を通し本来の実力を取り戻しつつあったが、トラックではまだ対応できなかつた。長距離パートは8月の長期の合宿が明けてからあまり日が経っておらず、疲労が抜け切らない選手もいたので、京大戦、箱根予選会ではさらに高いパフォーマンスを期待したい。

15:20 女子4×100mR 決勝

5レーンに大久保(3年)ー清水(3年)ー高山(2年)ー日下(3年)の走順で出場。一橋大がノーエントリーとなったため、津田塾大との一騎打ちになった。午前中に行われた女子100m決勝では津田塾大に2点負けしてはいるものの、七大戦での3位入賞など、今年的女子リレーチームには好調を裏付ける結果が出ており、応援にも自然と熱が入る。号砲とともに大久保が飛び出す。反応から加速まではまずまずといった様であったが、中盤からの伸びがよく、尻上がりにスピードを上げて内側の津田塾大を引き離す。津田塾大より一瞬早く2走にバトンが渡る。2走の清水は一転積極的な入りを見せるが、本大会の100m決勝で優勝した杉江が隣のレーンを走り、内側から追い上げられる形になってしまう。清水も懸命に振り切ろうとするが、バックストレート後半で振り切られ逆転される形となり3走にバトンが渡った。高山は外側のレーンを走りながらも津田塾大にうまくついて上がる。コーナ-トップ以降は若干失速するが、

それでも差をほぼ固持したまま日下に全てを託す。ここでバトンワークで若干もたつき、日下には苦しい展開となる。懸命に追い上げを見せるが、津田塾大の1位を脅かす程ではなく、53"50の2着でフィニッシュした。七大戦でのタイムより1秒程遅い結果となってしまう、まだまだ安定を欠いているといえるが、うまく軌道修正して京大戦では劇的な勝利を期待したい。

16:30 男子4×400mR 決勝

3レーンに定金(2年)ー梶岡(4年)ー小福田(4年)ー兵頭(2年)の走順で出場。ジャンプパートの定金を使う大胆な策に出た。フラットの400mレースではスコックを達成しているが油断は許されない。しっかりと勝って良き大会の締めにしたところである。1走の定金は無理に序盤から飛ばす事はせず、まずは状況を見極める構え。バックストレートではやや距離を離されるが、それでも慌てずに自分のペースを守る。250m付近からスピードを上げ始め、ラスト300mになって猛追するが、前を走る一橋大に僅か及ばず、梶岡にバトンが渡る。ここで梶岡が強い。好調であったフラットレースの勢いそのままに序盤から飛ばし、僅か50mであっさり一橋大を抜き去りトップに出る。バックストレートでも遠慮せずぐいぐい後続を引き離し、前半だけで15m程の貯金を作る。しかし後半はやや失速。第二コーナー出口からは明らかに疲れが見え若干差を詰められるものの、それでも余裕をもってバトンは3走へ。小福田は一転ゆっくりとした入りで、一橋大との差はあまり開きも縮まりもしない。しかし200m過ぎからのギアチェンジがよく、これにより一橋大をだいぶ引き離す。ラスト100mでも気力溢れる走りです十分なリードを作り、兵頭にバトンがわたる。兵頭も前半は焦らない走り、一橋大との差は徐々に詰まって行く。250m付近で相手がスパートをかけたこともありぐっと詰め寄られるが、ラスト100mは兵頭らしいスパートで追い上げを許さない。結局3"25"81の1着でフィニッシュ。レースの終了時から、照準はもう京大戦である。本レースの勝ちに

慢心しないようなレースを期待したい。

フィールド

10:30 男子円盤投 決勝

北川(4年)、谷(3年)、杉山(1年)が出場。午前一番の種目とあり、あまり暑くなる前に試合を行うことができた。練習投擲の段階から北川、谷が自己ベストを超えるような投擲をしており、結果や得点が期待された。北川、谷の両者は期待通りそれぞれ28m61を出し約3mの自己ベストの更新、29m12を出し約10cmの更新をした。この両者は結局、谷1位、北川3位となっている。ちなみに、谷はやり投げでも1位に輝き2冠を達成している。初出場の杉山は、練習期間の短さがそのまま出てしまい、17m31と揮わず6位で4ポイント制の今大会では得点は逃した。それでも合計6ポイントを獲得し、総合優勝への助けとはなっただろう。京大戦を5週間後に控える試合であり、好調を見せた北川、谷のより一層の活躍と、揮わず終わった杉山の今後の成長に期待したい。

11:50 男子砲丸投 決勝

北川(4年)、寺島(3年)、原(2年)の出場。約1ヶ月後にある京大戦に向けて調子を上げていきたい一戦である。寺島は1投目に9m04を投げ2投目以降に記録を伸ばそうとするが、力んだ投擲となってしまう記録は伸びず5位となった。原は2投目に1投目の記録を伸ばし9m18を投げる。しかし原も寺島同様に以降の投擲がうまくかみ合わず、結局は2投目の記録で4位となった。優勝候補の北川は1投目に9m60を投げてトップに立つと2投目以降も順調に記録を伸ばしていき、一度もトップの座を譲ることなく5投目の記録10m50で1位となった。結果、この種目では東大5点、一橋5点の同点となった。今回は北川以外の5人の記録が1m以内になるという接戦であったが、寺島と原は一橋勢に競り負けてしまい残念な結果となった。本種目での苦戦が予想される京大戦に向けて一層の努力が期待される。

11:50 女子砲丸投 決勝

楠木(3年)、鈴木(1年)の出場。砲丸投が専門の楠木は夏期練習の成果を発揮し、突出した選手が不在のこの試合で確実に1位を取ることが期待された。また、砲丸投は専門外の鈴木は1点でも得点を稼ぐことが目標であった。楠木は練習投において普段以上の飛距離を投げたものの、いざ本番になると普段の練習のようなグライドができず1投目では8mを超えられなかった。2投目で8m07を投げるも、それ以降は記録を伸ばすことができず、結局、自己ベストに届かない8m07の1位であった。鈴木は1投目から5mを超える投擲を見せ、2投目で5m37を記録し他大の選手を1人抜いた。しかし、1500mを走り終えたばかりということもあり3投目以降の記録は振るわず、結局5m37の5位であった。楠木は普段通りの投擲もできず、調整力不足が浮き彫りになった試合であった。来る京大戦では確実に調子を合わせなければ負ける恐れもあるので慎重に練習に臨んでほしい。また、女子は部員数が少ないが、今回の鈴木のように今後も得点の可能性のある種目への出場を厭わないでほしい。

13:00 男子走幅跳 決勝

尾崎(4年)、廣瀬(3年)、西田(2年)の出場。グラウンドを朝から覆っていた雨雲は突然姿を消し、一転、焼けつくような日差しと灼熱の熱気の中で競技は行われた。本競技、対校の部の出場選手が計6人であるため6回の試技が行えることが始めから確定していた。そのためか各選手ともファールを恐れない積極的な跳躍を見せてくれる。尾崎は1跳目から実力の違いを見せつけトップ。さらに試技を重ねるごとに少しずつ記録を伸ばし、結局危なげもないままに1位で競技を終える。記録は、5跳目に記録した7m06。廣瀬は、ここ最近調子を崩していたこともあり、本来の速い動きが見られず記録も思うように伸びない。ファールがかさんだことも影響し、結果は6m30で5位。西田は1跳目、2跳目と大きな跳躍を連発するが、ぎりぎりのところでファールになる。助走距離を調整して3跳目、またもやの大ジャンプは自己ベストの6m70を

記録。尾崎に続く2位で競技を終える。以上の結果により、我が校の獲得点数は7点であった。尾崎、西田の活躍は期待通りのものであったが、廣瀬が実力を十分に発揮することが出来なかったのは非常に残念である。次回の対校戦までにしっかりと調整し、再び本来の頼もしい戦いぶりを見せてくれることを期待したい。

13:00 女子走幅跳 決勝

清水(3年)と高山(2年)の出場。強い日差しが照りつける中、競技は開始された。清水は午前最初の競技である100mでシーズンベストを出し、好調さが覗える。高山は、今シーズンの記録からすれば上位が十分狙える位置にいた。両者とも実力を発揮し、1点でも多く得点することが期待される。清水は、400mを走った直後での試技であったため、助走距離が安定せず、踏み切り板に足が乗ったのは2跳目だけであった。一度は4位につけるが最終跳躍で逆転され、2跳目に記録した4m33で5位であった。高山は1跳目が4m41と低調で、助走スピーをうまく上げることが出来ず4m40台の記録が続く。立て直そうとするが適わず、結局4跳目に記録した4m55で3位に終わった。10月の京大戦では、確実に得点することが重要となってくる。技術不足が露呈した形となったので、両者とも奮起して京大戦に向けて調子を合わせていくことを期待したい。

13:30 男子やり投 決勝

葉梨(4年)、北川(4年)、谷(3年)の出場。気温、湿度ともに高かったものの、風はなく競技しやすいコンディションとなった。

葉梨は肩、足首に不安の残る中での競技となったが、助走から積極的にせめる投擲を見せ、4投目に43m26を記録し、4位であった。北川は京大戦を見据え多種目出場しており、やり投げは3種目目であった。疲れもあってか本来の投げが出来ず、3投目の41m19で5位であった。谷は1投目に59m66を記録し、上々の滑り出しをみせたが、その後は助走が全く合わず記録が伸ばせなかったものの1位となり、円盤投げとの2種目優勝を果たした。東大はこの種

目5点であった。京大戦に向けて2番手以降の選手の伸びが不可欠だろう。

14:50 男子走高跳 決勝

荒井(3年)、西田(2年)の出場。小福田(4年)は400mに出場した直後で、マイルリレーにも出場する予定だったため走高跳は大事をとって棄権した。午後になって急に日差しが強くなり、じっとしていても汗ばむほどの暑さだった。小福田の欠場ため、一橋の3番手の選手と荒井、西田が3位と4位を争う展開になった。西田は走幅跳のすぐ後であることを感じさせないバネのある跳躍で足あわせでは1m50を余裕をもってクリアした。だが、走高跳の練習は全くしていないのではさみ跳びの後に足を上げて尻から着地するような跳び方で1m65以上は厳しいように見えた。1m55から競技を開始した西田はこれを一跳目で成功させる。続く1m60では高さはとても出ていたのだが3回とも尻でバーを落としてしまった。荒井も練習跳躍で1m50を跳び、1m55から競技を開始した。1m55、1m60は一回でクリアしたのだが1m65の一跳目で背中がバーにあたって失敗してしまう。2跳目は足が合わずに失敗。3跳目は力んだのか、体がながれて失敗してしまい、結局1m60におわった。一橋の3番手の選手は3跳目に1m65を跳んだため、荒井は惜しくも4位、西田は5位でスコルク負けを喫してしまった。今回は層の薄さが露呈した結果であろう。来年は小福田も卒業してしまうため、さらに弱体化してしまう。荒井のレベルアップと新規戦力の加入に期待したい。

1.5 試合結果

第50回東京大学・一橋大学対校陸上競技大会

第5回東京三大学女子対校陸上競技大会

於 東京大学駒場第一グラウンド (H20.9.6)

男子 100m 決勝 (±0.0m)			
1	都井紘	東京大	11.41
2	春日慶輝	東京大	11.43
3	永田雅之	一橋大	11.49
4	中嶋毅彰	東京大	11.71
5	西岡大喜	一橋大	11.94
6	小澤順	一橋大	11.95

男子 400m 決勝			
1	小福田大輔	東京大	49.54
2	梶岡利之	東京大	50.73
3	兵頭直也	東京大	50 [〃] 73
4	鈴木楓太	一橋大	52.13
5	服部康平	一橋大	52.79
6	西岡大喜	一橋大	54.14

男子 1500m 決勝			
1	斉藤拓	一橋大	4.13.53
2	石川宗史	一橋大	4.14.29
3	石橋俊輝	一橋大	4.15.87
4	千徳恒憲	東京大	4.17.52
5	池田剛志	東京大	4.19.26
6	坂井啓一	東京大	4.20.15

男子 5000m 決勝			
1	竹俣直道	東京大	15.18.0
2	大垣秀介	一橋大	15.29.1
3	森田祐祐	一橋大	15.30.9
4	東大貴	東京大	15.34.8
5	宮野健司	東京大	15.46.9
6	江島平祐	一橋大	16.26.0

男子 110mH 決勝 (+0.1)			
1	酒谷彰一	東京大	15.70
2	増本健太郎	東京大	16.11
3	高木海平	東京大	16.69
4	石川順章	一橋大	16.76

5	金久保欣之	一橋大	17 [〃] 14
6	佐々木達朗	一橋大	17 [〃] 27

男子 4 × 100mR 決勝

1	東京大	43.69
(中嶋-都井-春日-福田)		
2	一橋大	43.82

男子 4 × 400mR 決勝

1	東京大	3.25.81
(定金-梶岡-小福田-兵頭)		
2	一橋大	3.26.43

男子走幅跳決勝

1	尾崎翔	東京大	7m06
2	西田昂広	東京大	6m70
3	小澤順	一橋大	6m51
4	石川順章	一橋大	6m32
5	廣瀬晃	東京大	6m30
6	平山晃一	一橋大	5m79

男子走高跳決勝

1	石川順章	一橋大	1m95
2	平山晃一	一橋大	1m75
3	佐々木達朗	東京大	1m65
4	荒井博貴	東京大	1m60
5	西田昂広	東京大	1m55
-	小福田大輔	東京大	NM

男子砲丸投決勝

1	小林宗隆	東京大	10m70
2	北川昂広	東京大	10m48
3	石川順章	一橋大	9m46
4	寺島孝明	東京大	9m02
5	高松祐輝	一橋大	8m16
6	羽鳥正靖	一橋大	7m07

男子円盤投決勝

1	谷彰一郎	東京大	29m12
2	武川晋也	一橋大	28m67
3	北川昂広	東京大	28m61
4	高松佑輝	一橋大	27m08
5	石川順章	一橋大	25m26

6 杉山聡 東京大 17m31

男子やり投決勝

1	<u>谷彰一郎</u>	東京大	59m66
2	<u>重光成一郎</u>	一橋大	53m67
3	<u>高松佑輝</u>	一橋大	49m91
4	<u>葉梨輝</u>	東京大	43m26
5	<u>北川昂広</u>	東京大	41m19
6	<u>石川順章</u>	一橋大	35m12

男子トラック順位

1	<u>東京大</u>	40
2	<u>一橋大</u>	22

男子フィールド順位

1	<u>一橋大</u>	26
2	<u>東京大</u>	24

男子総合順位

1	<u>東京大</u>	64
2	<u>一橋大</u>	48

女子 100m 決勝 (±0.0)

1	<u>杉江祐里</u>	津田塾	13.42
2	<u>清水蘭</u>	東京大	13.56
3	<u>川田真梨子</u>	津田塾	13.70
4	<u>大久保渥子</u>	東京大	13.75
5	<u>揚玲美</u>	一橋大	13.81
6	<u>池ヶ谷真希</u>	一橋大	13.92

女子 400m 決勝

1	<u>日下桃子</u>	東京大	1.01.42
2	<u>杉江祐里</u>	津田塾	1.02.86
3	<u>揚玲美</u>	一橋大	1.04.10
4	<u>川田真梨子</u>	津田塾	1.05.88
5	<u>清水蘭</u>	東京大	1.06.56
6	<u>池ヶ谷真希</u>	一橋大	1.06.56

女子 1500m 決勝

1	<u>日下桃子</u>	東京大	4.54.67 NGR
2	<u>中島加奈恵</u>	津田塾	5.18.89
3	<u>鈴木恵美里</u>	東京大	5.55.58
4	<u>大塚理絵</u>	津田塾	6.01.71

5 揚玲美 一橋大 6.55.83

- 奥田麗子 一橋大 DNS

女子 4 × 100mR 決勝

1	<u>津田塾</u>	52.65
2	<u>東京大</u>	53.50

(大久保-清水-高山-日下)

女子走幅跳決勝

1	<u>山本彩花</u>	津田塾	4m81
2	<u>池ヶ谷真希</u>	一橋大	4m66
3	<u>高山花子</u>	東京大	4m55
4	<u>揚玲美</u>	一橋大	4m39
5	<u>清水蘭</u>		4m33
6	<u>岡田政子</u>	津田塾	4m22

女子砲丸投決勝

1	<u>楠木千尋</u>	東京大	8m07
2	<u>池ヶ谷真希</u>	一橋大	7m32
3	<u>岡田政子</u>	津田塾	6m28
4	<u>小野寺みずほ</u>	津田塾	5m57
5	<u>鈴木恵美里</u>	東京大	5m37
6	<u>揚玲美</u>	一橋大	4m80

女子トラック順位

1	<u>津田塾</u>	32
2	<u>東京大</u>	30
3	<u>一橋大</u>	10

女子フィールド順位

1	<u>東京大</u>	14
1	<u>津田塾</u>	14
1	<u>一橋大</u>	14

女子総合順位

1	<u>津田塾</u>	46
2	<u>東京大</u>	44
3	<u>一橋大</u>	24

2 自己記録更新者一覧 2008.8.4 ~ 9.6

8/31 NSSU オープン (日体大健志台)

200m 梶岡利之 (4年) 23"24(+0.0)

9/6 一橋戦 (駒場)

100m 小福田大輔 (4年) 11.43(+0.0)

100m 渡邊拓也 (2年) 12.37

400m 小福田大輔 (4年) 49.54

400m 梶岡利之 (4年) 50.73

400m 渡邊拓也 (2年) 52.65

400m 日下桃子 (2年) 1.01.42

110mH 増本健太郎 (4年) 16.11(+0.1)

5000m 松本光一 (4年) 17.44.3

走幅跳 浅沼達也 (3年) 5m98(-0.5)

走幅跳 西田昂広 (3年) 6m70(+0.2)

三段跳 定金駿介 (2年) 13m52(± 0.0)

棒高跳 原湖楠 (2年) 3.40

3 2008年度部内5傑

男子 100m

1 福田篤 (4年) 11"20(+1.7) 4.20

2 都井紘 (3年) 11"30(+1.4) 5.4

3 春日慶輝 (1年) 11"43(± 0.0) 9.6

3 小福田大輔 (4年) 11"43(± 0.0) 9.6

5 藤本元太 (5年) 11"50(-0.6) 4.5

男子 200m

1 1 福田篤 (4年) 23"18(± 0.0) 3.2

2 舩島一樹 (1年) 23"19(+0.0) 5.31

3 梶岡利之 (4年) 23"24(+1.2) 8.31

4 春日慶輝 (1年) 23"34(-1.6) 7.19

5 都井紘 (3年) 23"66(-1.2) 5.4

男子 400m

1 小福田大輔 (4年) 49"54 9.6

2 兵頭直弥 (2年) 49"83 4.5

3 深澤真楠 (4年) 50"41 5.4

4 梶岡利之 (4年) 50"73 9.6

5 舩島一樹 (1年) 52"00 5.17

男子 800m

1 渡邊拓也 (2年) 1'56"01 4.5

2 川口祐貴 (3年) 1'58"30 5.5

3 坂井啓一 (3年) 1'58"32 6.14

4 園部竜也 (2年) 2'02"85 7.12

5 須田遊人 (3年) 2'03"04 5.5

男子 1500m

1 竹俣直道 (2年) 4'04"00 6.21

2 山田竜也 (1年) 4'08"29 8.3

3 坂井啓一 (3年) 4'09"84 5.5

4 渡邊拓也 (2年) 4'09"85 6.20

5 割沢高行 (6年) 4'11"22 4.5

男子 5000m

1 竹俣直道 (2年) 14'52"69 7.12

2 東大貴 (1年) 15'20"49 7.5

3 山田健太郎 (3年) 15'25"12 4.20

4 山崎貴裕 (3年) 15'27"42 5.5

5 梶井駿介 (4年) 15'46"03 4.20

男子 110mH

1 尾崎翔 (4年) 15"14(-0.7) 8.3

2 酒谷彰一 (2年) 15"70(-1.4) 8.3

3 増本健太郎 (2年) 16"11(+0.1) 9.6

4 高木海平 (1年) 16"69(+0.1) 9.6

5 江間輝裕 (2年) 17"02(+0.0) 7.19

男子 400mH

1 深澤真楠 (4年) 55"47 8.3

2 赤木裕 (2年) 56"39 8.3

3 酒谷彰一 (2年) 57"51 7.5

4 江間輝裕 (2年) 58"26 7.5

5 門脇啓太 (4年) 59"24 6.14

男子 3000mSC

1 山崎貴裕 (3年) 9'48"14 8.3

2 青木佑樹 (1年) 9'51"90 7.5

3 山口健介 (8年) 10'04"74 4.5

4 庄司健太 (2年) 10'05"85 7.5

5 渡邊拓也 (2年) 10'06"85 7.13

男子 5000mW

1 和田光一郎 (4年) 24'46"28 6.14

2 北沢太郎 (4年) 25'07"04 6.14

3 菅野雄大 (5年) 25'39'56 8.2

4 早川晃司 (2年) 26'31'51 8.2

5 位田武嗣 (1年) 26'43'90 8.2

男子 10000mW

1	菅野雄大 (5年)	48'25"94	5.18
2	北沢太郎 (4年)	48'39"79	5.18
-	和田光一郎 (4年)	47'39"28	3.23

男子 走幅跳

1	尾崎翔 (4年)	7m25	5.25
2	武安光太郎 (3年)	7m19	5.25
3	西田昂広 (2年)	6m70	9.6
4	廣瀬彬 (3年)	6m68	5.6
5	浅沼達也 (3年)	5m98	9.6

男子 三段跳

1	武安 光太郎 (4年)	14m01	5.17
1	廣瀬 彬 (2年)	14m01	8.3
3	倉員 智瑛 (5年)	13m82	4.5
4	定金 駿介 (2年)	13m52	9.6
-	西田昂広 (2年)	13m26	3.23

男子 走高跳

1	小福田大輔 (4年)	1m80	6.14
2	荒井博貴 (3年)	1m60	8.3
3	西田昂広 (2年)	1m55	9.6
-	原湖楠 (2年)	1m45	3.22

男子 棒高跳

1	大谷真人 (4年)	4m40	8.3
2	土居富裕 (1年)	3m90	8.3
3	原湖楠 (2年)	3m40	9.6

男子 砲丸投

1	北川昂広 (4年)	10m50	9.6
2	原湖楠 (2年)	9m82	8.3
3	寺島孝明 (3年)	9m31	8.3

男子 円盤投

1	谷彰一郎 (3年)	28m49	8.3
2	北川昂広 (4年)	28m62	9.6
3	原湖楠 (2年)	25m92	6.14
4	杉山聡 (1年)	17m31	9.6

男子 ハンマー投

1	寺島孝明 (3年)	40m59	5.6
2	千葉伸宏 (2年)	32m32	8.3

男子 やり投

1	谷 彰一郎 (3年)	61m58	8.3
2	葉梨輝 (4年)	43m86	8.3
3	北川昂広 (4年)	43m84	8.3
4	原湖楠 (2年)	39m92	5.31
5	千葉伸宏 (1年)	39m03	9.6

男子 十種競技

-	原湖楠 (2年)	4127点	3.22-23
---	----------	-------	---------

女子 100m

1	清水蘭 (3年)	13"56(+0.0)	9.6
2	大久保渥子 (3年)	13"74(+0.2)	8.3
3	高山花子 (2年)	14"36(+1.2)	5.31
4	楠木千尋 (3年)	14"82(+0.8)	4.13
-	日下桃子 (3年)	14"56(+0.0)	3.23

女子 400m

1	日下桃子 (3年)	1.01.42	9.6
2	清水蘭 (3年)	1.06.56	9.6
3	楠木千尋 (3年)	67"15	5.31

女子 800m

1	日下桃子 (2年)	2'19"85	8.3
---	-----------	---------	-----

女子 1500m

1	日下桃子 (3年)	4'54'67	9.6
2	鈴木恵美里 (1年)	5'46"44	6.14

女子 3000m

1	鈴木恵美里 (1年)	12'43"59	5.31
---	------------	----------	------

女子 走幅跳

1	高山花子 (2年)	4m87	8.3
2	清水蘭 (3年)	4m34	7.5
3	大久保渥子 (3年)	4m28	7.5

女子 砲丸投

1	楠木 千尋 (3年)	8m24	8.3
2	鈴木恵美里 (1年)	5m37	9.6

女子 ハンマー投

1	楠木 千尋 (2年)	22m68	5.6
---	------------	-------	-----

女子 やり投

1	楠木 千尋 (2年)	20m73	6.14
---	------------	-------	------

4 主務より

4.1 応援OB・OG紹介

9月6日(土)、駒場グラウンドにて行われました一橋戦に際し、応援に駆けつけて下さったOB、OGの皆様のご氏名を報告いたします。(敬称略)

1967年卒 林義之
1975年卒 鈴木正保
1979年卒 中谷敬二
1983年卒 八田秀雄

1991年卒 小野満
1994年卒 工藤麻衣子
2003年卒 橋本武
2005年卒 藤田靖浩
2008年卒 松本翔

ご多忙の中、お越し下さいましたことに心よりお礼申し上げます。

4.2 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

- 京大戦
10/12(日) 西京極
- 箱根駅伝予選会
10/18(土) 立川

4.3 訃報

1969年卒の古川源蔵先輩が、8月21日にお亡くなりになりました。
謹んでご冥福をお祈りいたします。

4.4 連絡先(慶弔等)

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長:田上静之

TEL : 03-3835-6792

(凸版印刷株式会社経営監査室)

E-mail : seishi.tanoue@toppan.co.jp

学生主務:小福田大輔

〒133-0056 東京都江戸川区南小岩 3-5-13

TEL : 090-8046-2117

FAX : 03-3673-5819

E-mail : swe-ep-red19@hotmail.co.jp

以上です。今後ともご指導ご支援のほどよろしく
お願い申し上げます。

主務 小福田大輔

文責 : 柴田渥史